

あわら新聞

「ちはやふる聖地」 観光客殺到!

～あわらとアニメの繋がり～

発展してきた。その後、福井大震災、芦原大火など度重なる震災を乗り越え今日に至っている。

アニメでモデルされた場所

あわら坂



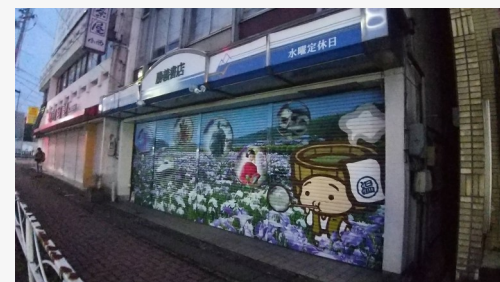
※あわたた坂の正面と左側 (LIN WAN PING 撮影)

※あわたた坂の後ろ姿と左側 (LIN WAN PING 撮影)

ここは、当地の人々によると、「知る人は知る桜の名所」と知られている。原作で主人公の千早と太一が新に再会する桜並木のモデルとされる所だ。だから、ここは新の名前で命名された。2019年3月31日に「あわたた坂」という記念碑が建てられた。

記念碑は前は「あわたた坂」を書いてある。上にあるかたの札に、「われてもすゑにあはむとぞおもふ」と書いてある。それはちはやふるの第一巻にある百人一首だ。愛しい人々と再会を願うという意味がある。左側に在原業平が詠んだ歌「ちはやふる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは」と書いてある。

勝義書店



※勝義書店の看板

(CHEANG HIO WAI 撮影)

原作で新がバイト先の所だ。映画のロケに、店内のセットが組まれたが、現在は看板だけ残されている。

アニメ聖地として大人気



※「ちはやふる WEEK IN あわら」パンフレット (LIN WAN PING 撮影)

今年の10月に、競技かるたを題材にしたアニメ「ちはやふる」第3期のテレビ放送が始まった。この作品は、競技かるたの魅力とともに、かるたを通じて、登場人物たちが成長していく姿や友情が深まっていく様子が描かれている。

主人公の綿谷新は福井のあわら市出身で、作品の中にも、蘆原温泉駅周辺の景色が出てきたので、近年あわら温泉は聖地として大人気。

—あわら市には、ちはやふるは何か影響がありますか？—



※甘党本陣嵯峨にある末次紀先生の原画者 (LIN WAN PING 撮影)

「普段温泉旅行のイメージは年上や年寄りなどの人が来ますが、ちはやふるのおかげで若者と外国からの観光客が増えました。確かに観光客が増えましたが、ただ、来てくれる観光客、若者達が日帰りの旅行を結構するので、宿泊が増えません。消費額的には微妙なところにあります。」

—あわら市の観光は何か変わりましたか？—

「確かに今は外国からの観光客が増えましたが、英語表記や中国表記などの場合は10年前以上からパンフ

福井県の最北端に位置するあわら市と言えば、温泉は有名だが、近年あるアニメの聖地としても人気がある。今回はあわら温泉を紹介することだけでなく、アニメ聖地としてのあわらも紹介したいと思う。

レットや矢印などに書き始めました。しかし、最近タイ語が増えました。また、あわたた坂というところは元々普通の場所ですが、今ロケ地になりました。私達もちはやふるの作品の中で紹介された場所を見に行きたい観光客のために何とかをしようと考えています。」



※あわら温泉の案内所にある「ちはやふる」のキャラクターボイスコーナー (LIN WAN PING 撮影)

実はあわら市は2014年により、「ちはやふる week in あわら」というイベントを毎年開催し、今年もう6年目になった。「聖地巡礼ツアー」や「百人一首大作戦ゲーム」などのイベントを通して、日本の文化を体験しつつ、あわら市の魅力をより多くの人に伝える。

そして、今年の12月1日から、「ちはやふる3」放送記念として、総勢16名の超豪華声優陣のあわらオリジナルボイスが聞けるスペシャルボイスをあわら市内に設置してある。声優が好きな皆さんもぜひ体験しに行ってみてください!

まとめ

あわら温泉は昔から、温泉が有名で、温泉を楽しみに来た人々が多い。今、アニメの力でこの古い町に元気が注いでもらった。自分好きなアニメで出てきた所に回ったり、認知されたものに新たな一面が発見するだろう。

この紙面は私たちが企画、取材、執筆した。CHEANG HIO WAI、LIN WAN PING、PHAM THI DIEM TRINH、JASCHA DEWANGGA

※あわら温泉駅の看板 (LIN WAN PING 撮影)

基本情報

あわら市は、福井県の最北端にある。あわら市の北東は石川県加賀市に隣接し、北西は日本海に向いている。「関西の奥座敷」と呼ばれている。あわら市の面積は約116 km²である。あわら市の行き方は3つがある。

交通	発	着
京福バス	福井駅東口1番乗り場	あわら湯のまち
北陸本線電車 (金沢行)	JR 福井駅	あわら温泉駅
えちぜん鉄道 電車(三国港行)	福井駅・福大前西福井	あわら湯のまち

温泉の発展史

昔、芦原温泉中心部の温泉地帯は低湿な沼地だった。明治16年に町内堀江十楽の一人の農民が灌漑用の水を求めて水田に井戸を掘ったところ、約80度の温泉が湧出したのが始まる。翌明治17年には何軒かの温泉宿が開業し湯治客を泊めるようになり、明治45年に旧国鉄三国線が開通して以降、温泉街として